



APS March meeting 参加報告

関連基礎科学系 博士課程一年 大岡佳生

平成 30 年 3 月 5 日から 9 日に開催された APS March meeting に参加し、また登壇発表を行ったので報告を行う。APS March meeting は米国物理学会が年に一度開催する学術講演会であり、世界の研究者が一堂に会し研究成果を報告するとともに議論、情報共有、意見交換を行う場である。私は“Ghost diffraction by ghost imaging”という題で発表を行った。私にとって



は初の海外渡航であり、初の英語発表であった。英語発表は内容、発音ともに困難であったが、やはりいざ実際に行うことで、ここまでなら出来る、次はこれを改善しよう、と気づくことが多く貴重な経験となった。また発表内容にとっても興味を持ってもらえたことは嬉しく思う。発表それ自体だけでなく、時差の体調への影響や日常的な英会話をする必要性など海外発表を行う上で避けられない問題を体験出来たことも有意義であった。

他の研究者の発表に対しては、特にポスター発表へ積極的に質問をし、議論を行った。物理という共通の話題がある上での英会話は日常会話以上に楽しいものであり、有益でもあった。熱心に質問すれば皆好意的に説明をしてくれた。英語が流暢に話せることも重要なことではあるが、伝えようとする意志や相手の伝えたい内容を理解しようという心意気があれば情報収集や議論を行うことが出来た。トピックとしては磁場下の *bacteria* の成長についての研究、堆積物の雪崩現象に関する研究、マイクロスコーピーのサンプルへのダメージを積算や干渉計によって減少させる研究、グラフェンに水平に伝搬する光ビームのロス計算、ドーム構造における表面プラズモン共鳴の研究などがあり、議論を通じて視野を広げることが出来た。

最後に、このよう海外発表の機会を与え、さらなる海外発表へのモチベーションにもなる経験に繋がった助成に感謝を申し上げたい。